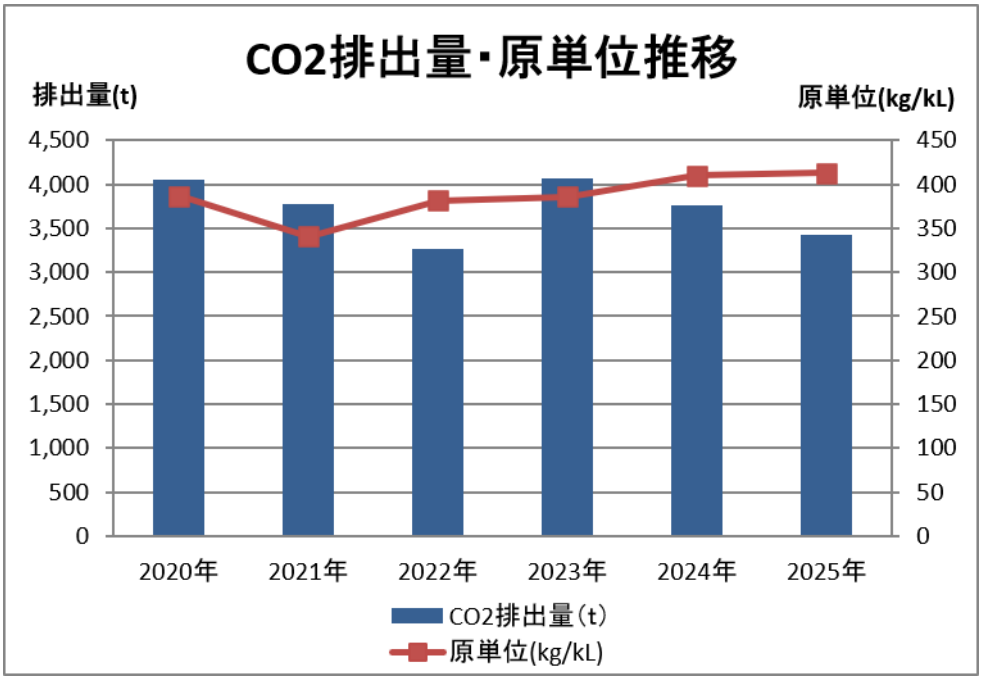
Ⅰ.【2025(令和七)年度の重点取組目標・計画の実施状況】

1.　地球温暖化対策(温室効果ガスの抑制)

当社では、省エネルギーに努め、CO_2 排出量の削減、排出原単位の低減を図ってきました。また、2025 年度の環境保全計画書において、2025 年度の燃料、電力の使用量を 2024 年度比で、2025 年度の醸造数量を分母とした原単位で 1%削減することを掲げました。2025 年度においては、蒸米放冷機の更新作業に伴い生産日数が減少した結果、醸造数量が 9.6%減少したのに加え、8月より高圧電流を供給する電気事業社を変更した結果、CO2 排出係数は前年より 5.5%減少し、CO2 排出量は 9.0%減少しています。しかしながら、醸造数量に関わらず常時必要な電力(空調や貯酒タンクの冷却など)の比率が高いため、醸造数量の減少ほど使用電力は減少せず、排出原単位は 0.8%増加しております。排出総量は下表と下図の通りです。今後も実現可能な新たな目標を掲げ、CO_2 排出量削減に努めてまいります。

CO_2 排出状況の推移

項　　目		2020 年	2021 年	2022 年	2023 年	2024 年	2025 年
醸造数量 (kℓ)		10,469	11,065	8,561	10,533	9,167	8,287
CO2 排出量 (t)	重油・灯油						
	LP ガス		44	70	107	109	90
	都市ｶﾞｽ	1,272	1346	1212	1306	1,104	1,018
	電力購入	2,121	2,383	1,982	2,654	2,548	2,317
	軽油・ｶﾞｿﾘﾝ						
	J-クレジット売却分	655					
	合計	4,048	3,773	3,264	4,068	3,761	3,425
排出原単位 (kg/kℓ)		387	341	381	386	410	413



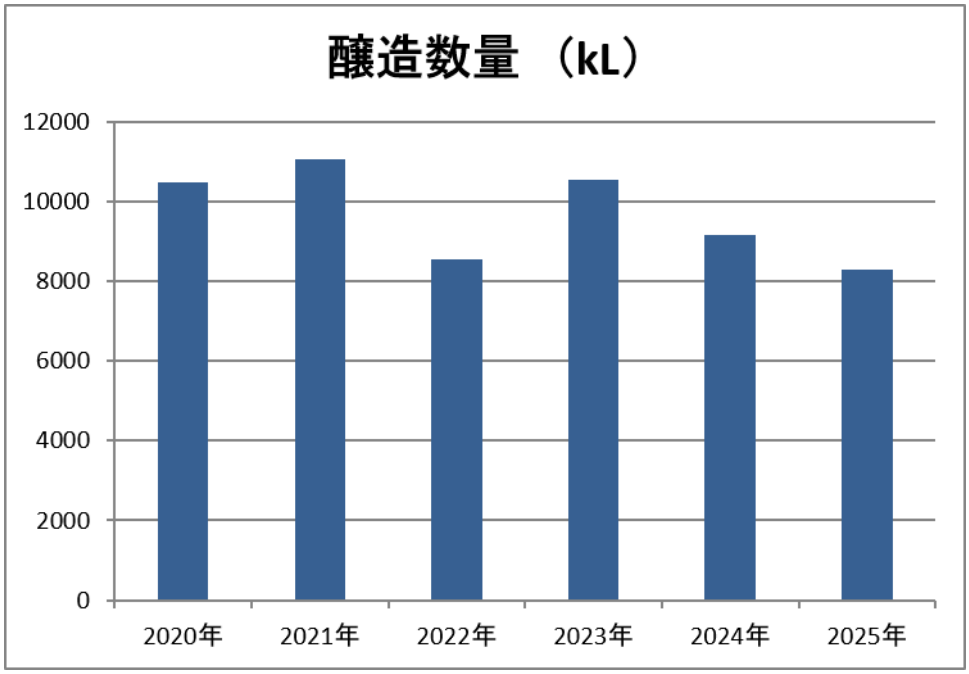
2.　省エネルギーの推進

下表、下図にエネルギー使用量・原単位、醸造数量の推移を示しました。2025 年度は蒸米放冷期の更新作業に伴い生産日数が減少した結果、醸造数量が 9.6%減少し、燃料、電力、用水の使用量はそれぞれ 8.4%、3.3%、0.6%減少しました。醸造数量の減少の割に電力使用量が減少しなかった理由は、常時必要な空調にかかる電力使用量がそれほど減少せず、冷酒需要に伴う貯酒タンクの冷却に用いる電力が増加したことなどです。その結果、燃料、電力、用水の原単位はそれぞれ 1.3%増、7.0%増、10.0%の増となり、いずれにおいても目標の達成には至りませんでした。引き続き、エネルギー管理体制をより強化し、設備稼動の効率化を重点に省エネ活動を推進します。特に電力はエネルギー消費量の約 70%を占めるに至り、高効率設備更新や電力ピークカット等の実効性のある節電対策を検討してまいります。

エネルギー使用量・原単位の推移

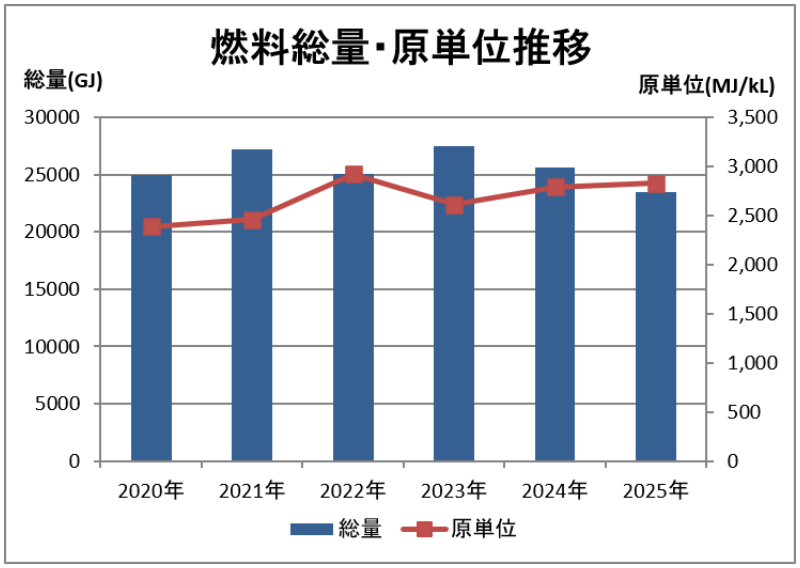
項目		単位	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年
醸造数量		kL	10469	11,065	8,561	10,533	9,167	8,287
燃料	総量	GJ	24994	27,192	25,007	27,469	25,589	23,429
	原単位	MJ/kL	2,387	2,458	2,921	2,608	2,791	2,827
電力	総量	千 kWh	6019	6,224	5,794	6,115	6,082	5,882
	原単位	kWh/kL	575	563	677	581	663	710
用水	総量	千m3	174	187	181	181	163	162
	原単位	m3/kL	16.7	16.9	21.2	17.2	17.8	19.5

醸造数量の推移

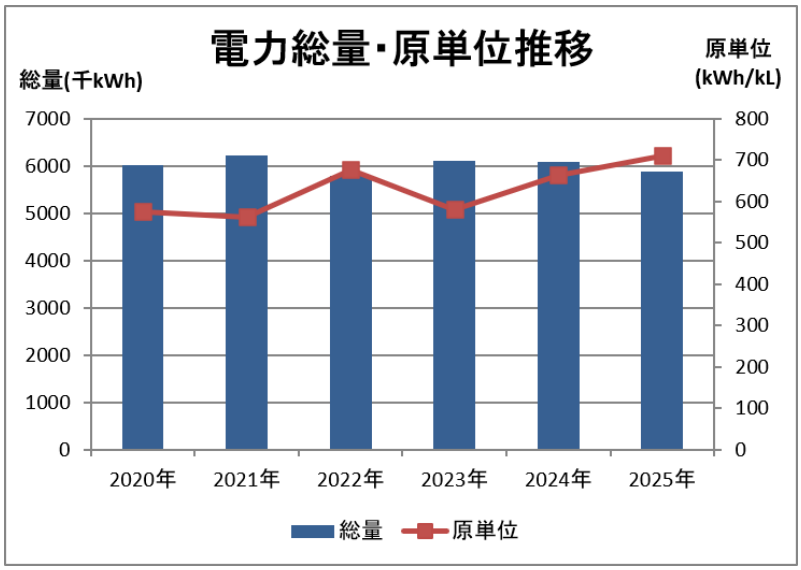


総量と原単位の推移

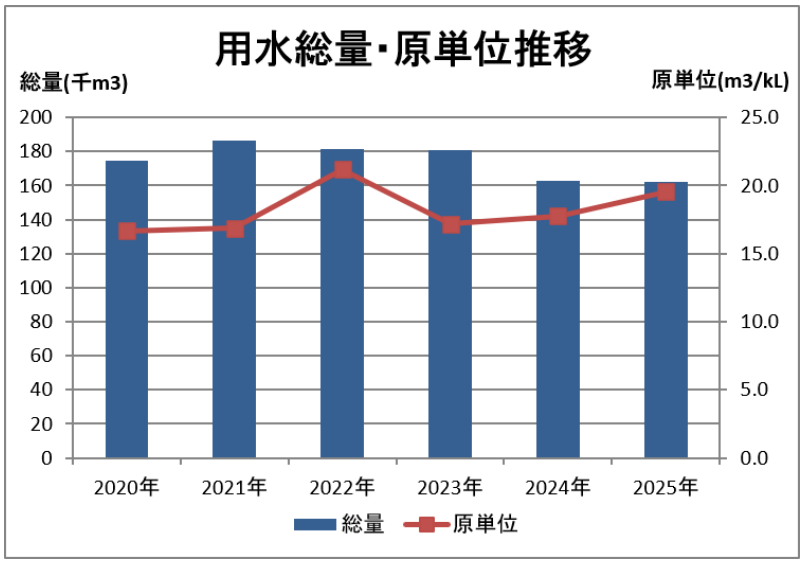
燃料



電力



用水



Ⅱ.【公害防止対策に係わる報告】

1.　目標達成のために講じた措置・対策

目 標 項 目		目標達成状況	講じた措置・対策
水質汚濁防止対策	排出水の水質管理及び汚濁負荷の総量管理	水素ｲｵﾝ濃度、浮遊物質SS、温度は法令基準、管理目標値を満たしていたが、生物学的酸素要求量は法令基準を超えたことがあった。（測定結果は 2.の表に記載）。	排水処理施設の適正な維持管理に努めると共に測定計画目標値の順守状況を確認した。生物学的酸素要求量が基準を逸脱した際には神戸市に報告し、指示に従った。

2. 2025 年度排出水の汚濁状態測定結果

法令排水基準設定項目（生活環境項目）	項　目	排 水 口	管理目標値	測 定 値		全測定回数	目標値を超過した回数	目標達成判定	法令基準達成判定
				最 大	平 均				
	水素ｲｵﾝ濃度（pH）	嘉宝蔵西	5.5～8.5	5.2 ～ 7.3	6.9	300	1	×	○
		製品工場東北		5.4 ～ 7.4	6.4	500	1	×	○
	生物学的酸素要求量 BOD（ppm）	嘉宝蔵西	1,500	1846	757	53	5	×	○
		製品工場東北	200	210	81	27	1	×	○
	浮遊物質 SS（ppm）	嘉宝蔵西	800	460	178	12	0	○	○
		製品工場東北	30	20	0.8	27	0	○	○
	温度（℃）	嘉宝蔵西	45	30.0	20.8	300	0	○	○
		製品工場東北		40.7	30.1	500	0	○	○

[備考]・排除基準値　pH：5 を超え 9 未満、BOD と SS：2000ppm 以下、温度：45℃未満
・BOD 値は COD 測定値を換算、嘉宝蔵西は自社分析と共に毎月外部機関に分析委託
・測定値最大の項で pH のみ最小～最大値を表示
・ ○：達成、×：未達成

Ⅲ.【地球温暖化対策に係わる報告】

1. 2025 年度における電気・燃料等の使用量、温室効果ガス排出量

活動の区分	燃料等の種類	使用量等 原単位	単位	単位発量（MJ）	排出係数 kg-CO2/MJ	排出量 kg-CO2
使用燃料	LP ガス	29,944	㎏	50.1	0.0597	89,532
		3.61	kg/kℓ			
	都市ｶﾞｽ	487,297	Nm3	45	0.0464	1,018,451
		58.80	Nm3/kℓ			
電気事業者から供給された電気量		5,881,965	kWh		0.394	2,317,029
		709.75	kWh/kℓ		（㎏-CO2/kWh）	
合 計						3,425,012

[備考]電気の排出係数は、環境省 HP の令和 8 年提出用 電気事業者別排出係数一覧を元に算出された温室効果ガス排出量を使用量等で除したもの。

2. 2025 年度の計画達成状況

	前年度実績（2024 年）	今年度予定（2025 年）	今年度実績（2025 年）
醸造数量(kℓ)	9167	9000	8287

温室効果ｶﾞｽ	前々年度（2023 年）	前年度実績（2024 年）	今年度目標（2025 年）	今年度実績（2025 年）
CO_2（kg）	4,067,676	3,760,790	3,655,257	3,425,012

3. 目標達成のために講じた措置・対策の達成状況

分野	項目	細目	目標	実施状況
ｴﾈﾙｷﾞｰ使用の合理化	節電	昼休みの一斉消灯、食堂の利用時間の使用制限、室内温度管理の徹底、扇風機の活用	燃料・電力使用量、および CO_2 排出量を 2024 年度に比べ、2025 年度に醸造数量を分母とした原単位で1%削減する。	蒸米放冷機更新に伴う醸造数量の減少に加え、冷酒貯酒に伴う電力使用量が増加した結果、燃料・電力使用量および CO2 排出量の原単位は目標を達成することができなかった。
製造工程における対策	燃料使用量の削減	ﾎﾞｲﾗｰの管理標準に従った効率運転の徹底、蒸気使用設備の消費ﾛｽ低減		
	生産計画の見直しによる設備稼働の平準化、効率化の実施	各ｴﾈﾙｷﾞｰ設備の高効率運転、夏期の設備稼働制限、ﾃﾞﾏﾝﾄﾞ値の抑制		

Ⅳ.【公害防止対策、地球温暖化対策以外の地球保全活動に係わる報告】

2025 年度の環境保全活動に係わる具体的実施内容

	分野	項目	細目	目標(前年比)	実施状況
1	節水	節水対策強化		徹底	微減
2	事業所等での廃棄物の適正処理・減量	分別回収	紙類回収専用箱及び空容器別回収ｺﾝﾃﾅの設置	徹底	ほぼ 100%回収
		ﾍﾟｰﾊﾟｰﾚｽ化推進、ｺﾋﾟｰ用紙の使用数削減、社内ﾈｯﾄﾜｰｸ、ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾀｰの利用推進		徹底	継続
		集約印刷、裏紙ｺﾋﾟｰ用紙の再利用		徹底	
		文具類の共同使用		徹底	継続
		廃棄物発生量の削減	再生利用、減容化の推進	徹底	継続
3	プラスチックに係る資源循環等の推進	使用不可能なパレットやＰ 箱、ならびに排出される包装用透明フィルムのリサイクル		徹底	継続
4	事務所等での再生製品の使用	ｸﾞﾘｰﾝ購入の実施	文房具、事務機器・備品	50%以上	ほぼ達成
		再生紙の使用促進	ｺﾋﾟｰ用紙、ﾊﾟﾝﾌﾚｯﾄ等の再生紙利用		
5	環境負荷の少ない資材類の選択、減量化	軽量容器の採用		随時	継続
		贈答ｹｰｽ減容化、簡易包装の推進		徹底	継続
		ライスインキを紙パック容器の印刷に使用		随時	実施
		紙パック資材にFSC 森林認証紙を使用		随時	実施
6	自動車対策	積載量の適正化	－	全車両	継続
		ｴｺﾄﾞﾗｲﾌﾞ・ｱｲﾄﾞﾘﾝｸﾞｽﾄｯﾌﾟの推進	－	徹底	継続
		低公害・省ｴﾈ・軽四車への転換	－	買替時	実施
		ﾄﾗｯｸ配送合理化	－	共同配送等の推進	継続
		自動車運転機会の低減と自転車利用の推進	－	徹底	継続
	特定ﾌﾛﾝ、代替ﾌﾛﾝ等使	設備更新時、特定ﾌﾛﾝ非使用設備を導入	－	更新時	実施

7	用機器の管理	特定ﾌﾛﾝ使用機器の適正廃棄	－	回収の徹底	実施
8	環境施設整備	緑地の整備	－	構内既設全域	実施
		森の世話人活動	国土交通省六甲砂防事務所が主宰する六甲山系の森の保全活動に参画	随時	実施
9	従業員教育	省ｴﾈ提案の募集	社内提案制度ｷｬﾝﾍﾟｰﾝ実施	2回／年	実施
10	地域社会への参画	事業所周辺の清掃活動	－	毎週実施	実施
		住吉川清掃活動への参加	－	2回/年	実施
		蔵開放ｲﾍﾞﾝﾄの実施	－	1回/年	実施
11	品質保証ｼｽﾃﾑの充実	ISO22000 の維持・管理	内部監査の実施と監査員の育成	随時	実施